

令和6年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		わかる喜び、できる自信を実感し、人とのつながりを大切にする児童の育成		4月		2～3月	
推進主体		教育課程検討委員会 研究主任・生徒指導担当・新学習システム推進教員 (管理職・主幹教諭・教務主任・)		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	○子どもアンケートでは、「自分の考えを発表するのが好きですか」という項目に対し、A・B評価は89%であった。ペアトークやグルーptークを意識して取り入れ、お互いの意見を交流してきた成果と思われる。 ○人物像等について「どのように描かれているか」に着目して読み深める取組を重ね、想像力や相手の気持ちを考える力が身に付いてきた。 ○「チャレンジタイム」での漢字練習により、漢字の定着につながった。	○根拠をもとに論理的に考え話し、相手の意図を捉えたり自分の考えと比べたりしながら聞く力を育成する。 ○文章の内容について、要点を明確化し、文章の構成を考えながら書く力を育成する。	○「話すこと・聞くこと」の領域に関する設問について、正答率が全国平均を+5ポイント以上になる。 ○「まとめて書く」ことを求める設問や「要約して書く」ことを求める設問について、正答率が全国平均を+3ポイント以上となる。	○ワークシートを活用して、予め自分の考えを書いておけるようにする等して、考えを発表しやすいようにする。 ○「話す、聞く」は、すべての学習の基本であり、学習場面のみならず、生活場面でも丁寧な指導を継続する。また、授業の中でペアトークやグルーptークを意識して仕組み、お互いの意見を交流しやすいようにする。	
		算数 数学	○「チャレンジタイム」で四則計算の練習を積み重ねたことで、徐々に基礎基本の定着につなげることができた。 ○高学年の算数を専科制にしたことで、指導の専門性が高まり、一人ひとりの学力状況を把握して授業を進めることができた。 ●兵庫型システム担当と学級担任と連携を取り、指導の充実を図っていくことが今後の課題である。	○学びに向かう力を高めるために、基礎基本のさらなる定着を図る。 ○児童が主体的に学習に取り組み、根拠をもとに考えたり、発表したりする学習を通して、課題解決の達成感と学ぶ楽しさを感じられるよう授業改善を図る。	○質問紙調査の「算数の勉強が好きですか」「算数の勉強がよくわかる」についての肯定評価で、前年度より+3ポイント以上となる。	○授業において、課題解決型の授業構成を取り入れる。目当てに沿って自力解決を行い、それをもとにペア、グルーpt、全体で話し合い、考えを深め、振り返りを行う授業を進める。	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学習のルール作りを丁寧に行ったことで、落ち着いた環境の中で学習を進めることができた。 ○学校司書の支援による図書推薦や読み聞かせ、読書通帳の活用により、子どもたちの読書活動を充実させることができた。	○対話を意識した授業づくりを継続するとともに、学級経営を見直し、安心して発言できる環境を整えていくことや、聞き方・話し方を意識させたより良い学習の場を作っていく。 ○読書への意欲を高める。	○落ち着いた学習に取り組めるよう環境整備を進める。 ○積極的に本を読む習慣を身につける。 ○学校独自アンケートにおける「積極的に読書をしている」についての肯定評価を前年度より+3ポイント以上にする。	○教室環境の整備を進め、落ち着いた雰囲気の中で学習に臨めるようにする。 ○学校司書と連携し、各教科学習と読書活動を結びつけていく。 ○図書の時間でビブリオバトルやブックトークなど、本に興味を持てる活動を取り入れたり、朝学習の「チャレンジタイム」において、読書時間を確保したりして、読書の充実を図る。		
授業等からうかがえる状況(各教科)	●保護者アンケートで「子どもは積極的に本を読んでいる」の項目に対しA評価が25%であった。朝学習の時間に読書タイムを設定し、読書の時間を全校で設定したが、読書に対する意識の低さが表れた結果になったため、本をすぐ手に取れる場所に置くなどの工夫・環境整備を進めていく。						
学 力 生 活 上 習 に 係 る 学 習 習 慣	全国学力・学習状況調査の質問の状況	○保護者アンケートで「子どもは進んで学習しようとしている」の項目に対し、A・B評価は76%で、昨年度とほぼ同じであった。今後も家庭学習が習慣化するようパターン化した宿題を出し、評価して次への意欲につなげる。 ○タブレットを用いての算数の宿題が定着し、学習意欲の促進と学力の定着を図ることができた。	○家庭における自主的な学習習慣の確立を進める。	○学校独自の保護者アンケート項目「子どもは進んで学習しようとしている」についての肯定評価を前年度より+3ポイントにする。	○家庭学習や生活習慣について、学級懇談会や学級通信、学年通信等を活用し、保護者と連携する。		
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	●与えられた課題はするが、自ら課題を見つけて学習に取り組もうとする子どもが少ない傾向にある。 ●あいさつに対して、子どもと保護者の意識に差が見られた。今後も気持ちの良い挨拶の輪を広げていけるよう指導を継続していく。	○自主的に取り組む学習を大切にする。 ○自分から進んで挨拶できる児童を増やせるよう指導を続ける。	○保護者アンケート項目「進んで挨拶する態度が育っている」についての肯定評価を前年度より+3ポイントにする。	○家庭学習の中に、自主学習を取り入れる。 ○挨拶は、「いつでも、どこでも、誰とでも、自分から」を合い言葉に意識付けをする。また、「にこにこデー」の挨拶運動を啓発の機会とし、推進する。		
授 業 改 善	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	○学校での学習や家庭での宿題等、タブレットを効果的に活用する機会を設けたことにより、タブレットの操作に慣れ、幅広く効果的活用を行うことができた。 ●保護者アンケートにおいて、「情報機器の使い過ぎによる視力低下の懸念」や「記述力や思考力低下の懸念」の声があがっていた。情報教育のプログラムを綿密に作成し、校内で足並みをそろえて取り組んでいきたい。	○目的意識を明確にした対話を取り入れた授業づくりに取り組む。 ○ICT機器の活用に慣れ、効果的な活用を図り、児童の理解促進を図る。	○保護者への学校評価アンケート項目において、肯定的な評価が得られるようにする。	○授業においてのめあてと振り返りを大切にするとともに、考えを深めるための発問や板書を念頭に置いて教材研究を進める。 ○学年ごとに発達課題に応じた情報教育のプログラムを作成し、指導にあたる。		
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	○対話を通して考えを深めるための授業の進め方や発問の在り方について、活発に議論することができた。 ○計画的に校内研修を行ったことで、教職員一丸となって人権問題について学び、人権の大切さについてじっくりと考えることができた。 ○ミライシードなどの活用事例について研修し、日々の実践に繋げることができた。	○校内研究において、「気づき合い、認め合い、つながり合おうとする子どもをめぐらして～対話を通して自分と向き合い考えを深める授業づくり～」を研究主題とし、学級作りや授業作りを進める。	○学校評価において、教職員アンケート結果の肯定評価を前年度よりも高める。	○ICT機器及びデジタル教科書の有効な活用について研修を深める。 ○講師を招聘し、研究主題にせまる学級づくり・授業づくりのあり方について研究を進める。 ○特別活動における話し合いの活動の積み上げを、継続する。		
	校内研修の状況						
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	◇学校に対して大変協力的で、地域全体で児童を見守る活動も組織的に行われている。					
	小・中における教科連携等の状況	○小中連携のための授業参観や情報交換により、子どもたちの課題を共通認識することができた。 ●6年生が進学に向けての見通しが持てるよう、中学校の体験授業等の取組について検討し、校種間の交流を深めていきたい。	○生徒指導及び学力向上に向けた、児童たちのスムーズな進学に向けた小・中連携を推進する。	○小中連絡会を定期的に開催し、連携を深める。 ○中学校区において、授業参観、挨拶運動等により、交流を図ったり、児童の現状や課題について情報交換したりし、課題の共有化を図る。			